

# 時代と共に

## 明治神宮外苑

明治神宮外苑は、明治天皇とその皇后、昭憲皇太后の御聖徳を永く後世に伝えるために全国国民からの寄付と献木、青年団による勤勞奉仕により、旧青山練兵場に造営され、大正15年10月22日に明治神宮に奉納されました。約48万㎡（現在約27万㎡）の庭園内に聖徳記念絵画館、憲法記念館（現在明治記念館本館）などの記念建造物のほか、陸上競技場（現在国立競技場）、神宮野球場、相撲場、水泳場（昭和5年）などが造営されました。国の施設だった明治神宮外苑は、戦後、昭和27年に宗教法人となりました。樹齢15年だったいちちょうの苗木も、今では東京の秋の訪れを告げる美しい『いちちょう並木』に。野球、アイススケート、テニス、など一年を通じてスポーツを楽しむ場として、多くの人に親しまれています。

# 史跡でたどる明治

散策をしながら、過ぎし時代に思いを馳せてみませんか

(壁画にまつわる史跡写真の左下には壁画リスト番号を標示しています。)



**▲明治神宮外苑之記** いちちょう並木の入口に立つこの石碑には、外苑造営の由来と施設の大要が記されています。



**◎御練兵榎** 明治20年青山練兵場設置以来、明治天皇がこの榎の西側に御座所を設け、憲法発布觀兵式（明治23年）などを親臨されました。



**◎憲法記念館（現明治記念館）** 壁画「枢密院憲法會議」の舞台となった建物。明治天皇より伊藤博文公に下賜。外苑造営にあたり、大正7年7月に移築されました。



**◎名木「ひとつばたご」** 幕末から、この付近にあった珍しい樹木で、俗名「なんじゃもんじゃ」。壁画「凱旋觀兵式」にも描かれています。



**◎葬場殿址** 明治天皇のご葬儀の際、ここに御靈柩を安置された葬場殿の跡です。建立と同時に植樹された楠が史跡に優しい影を投げかけています。



**◎樺太国境天測標** 明治38年、日露講和条約締結により、カラフトの北緯50度以南が日本の領土になりました。その境界を標示する標石の模造



**◎お鷹の松** 鷹狩の途中、徳川家光が休息していると、江戸城より愛鷹が飛来し、松に止まったことに由来。



- ▲明治神宮外苑之記
- ◎御練兵榎
- ◎憲法記念館
- ◎名木「ひとつばたご」
- ◎葬場殿址
- ◎樺太国境天測標

### 周辺案内地図

【JR】信濃町駅下車徒歩3分  
 【地下鉄】青山一丁目駅、外苑前駅下車徒歩10分  
 大江戸線国立競技場駅徒歩5分  
 ※有料駐車場あり

開館時間 10:00~16:30 (最終入館16:00)  
 年末年始 10:00~16:00 (最終入館15:30)  
 水曜日休館 (水曜日祝日の場合、翌日の平日)  
 ※臨時休館をする場合がございますのでお問い合わせください  
 施設維持協力金 500円  
 (入館の際お納めください)

# 重要文化財

# せいとくきねんかいがかん

# 聖徳記念絵画館

Important national treasure

MEIJI MEMORIAL PICTURE GALLERY



明治神宮外苑

Meiji Jingu Gaien (The Meiji Jingu Outer Precinct)

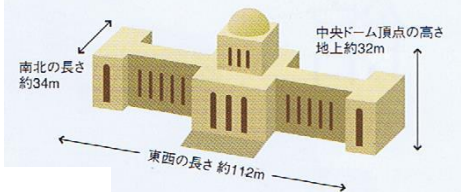




# 外苑のシンボルとして —— 聖徳記念絵画館 ——

明治天皇ご在位46年間の明治時代は、あらゆる分野において近代化への大きな飛躍を成し遂げ、様々な文化が花開きました。

明治神宮外苑のシンボルである聖徳記念絵画館には、明治天皇と皇后である昭憲皇太后お二方の御事績を描いた壁画80点が、延べ250mの壁面に展示されています。展示されている壁画は、この輝かしい時代の雄姿と歴史的光景を、史実に基づいた厳密な考証の上で描かれており、それぞれの壁画にゆかりの深い団体や個人から奉納されました。当時の一流画家による優れた芸術作品であるとともに、政治・文化・風俗の貴重な歴史資料としても高く



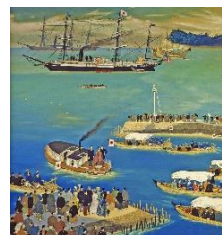
着工：大正 8年 3月 5日 (1919年)  
竣工：大正15年10月22日 (1926年)  
建築設計：公募された156点の中の一等入選作：小林正紹の原因をもとに明治神宮造営局において修正。構造・仕上：鉄筋コンクリート造2階建。(面積：1階約2,500㎡、2階展示室約2,247㎡)  
外苑及び階段は岡山県万成産花崗岩表装、内部中央広間の壁床等は主に国産天然大理石(美濃赤坂産はじめ、山口、愛媛、埼玉、福島、岡山の各県及び朝鮮産)及び一部タイル貼り。



## 壁画で見る明治



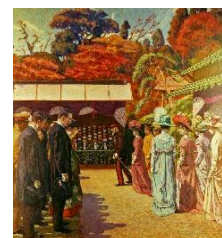
**王政復古 (天皇政治の復活) おうせいふっこ** 日本画 6  
時：慶応3年12月9日 (1868年1月3日)  
所：小御所 (京都御所内)  
奉納者：侯爵 松平康荘 画家：島田墨仙  
天皇政治復活宣言の翌年、年号は「明治」と改められ、政府も天皇親裁のもと全く新しい形で出発することになりました。壁画は、小御所で御前会議が開かれ、徳川慶喜を公儀に加えることについて議定山内豊信と参与岩倉具視が議論を交わしている光景を描いたものです。



**岩倉大使欧米派遣 (いわくらたいしおうはいはけん)** 日本画 21  
時：明治4年11月12日 (1871年12月23日)  
所：横浜港  
奉納者：横浜市 画家：山口達春  
幕末当時、諸外国と締結した条約が日本にとって不利な点が多かったため、これを改正するため、岩倉具視、木戸孝允、大久保利通、伊藤博文等60余名が欧米各国の制度や文化の視察に行きました。舟で横浜ふ頭を離れ、アメリカ号へ向かう光景を描いたものです。



**枢密院憲法会議 (すうみつみけんぼうかいぎ)** 洋画 50  
時：明治21年6月18日～12月17日 (1888年)  
所：赤坂仮皇居御会食所  
奉納者：侯爵 伊藤博邦 画家：二世五姓田芳柳  
明治21年憲法草案が完成し、明治天皇御臨席の下、枢密院において伊藤博文を議長として6月18日～12月17日までその審議が行われました。壁画は6月18日の会議の光景です。現在、この建物は明治記念館の本館「金鶏の間」として東京都指定有形文化財(建造物)に指定されています。



**親菊会 (かんぎくかい)** 洋画 76  
時：明治42年11月19日 (1909年)  
所：赤坂御苑  
奉納者：侯爵 徳川頼貞 画家：中沢弘光  
赤坂離宮の親菊会は、浜離宮の親桜会とともに国際親善をはかるため、欧州の園遊会にならって、明治13年から毎年行われました。壁画は天皇が皇后とともにお出ましになられた光景です。

## 展示壁画より

## 展示壁画リスト

縦3m、横2.7mの壁画80点が、延べ250mの壁面に年代順に展示されています。

番号	日本画 画題	画家	番号	洋画 画題	画家
1	御降臨	高橋秋華	41	グラント將軍と御対話	大久保作次郎
2	御深會木	北野恒富	42	北海道巡幸屯田兵御覽	高村真夫
3	立親王宣下	橋本永邦	43	山形秋田巡幸鉦山御覽	五味清吉
4	踐詐	川崎小虎	44	兌換制度御治定	松岡 寿
5	大政奉還	卯田丹陵	45	軍人勅諭下賜	寺崎武男
6	王政復古	島田墨仙	46	条約改正会議	上野広一
7	伏見鳥羽戦	松林桂月	47	岩倉邸行幸	北 蓮蔵
8	御元服	伊東紅雲	48	華族女学校行啓	跡見 泰
9	二条城太政官代行幸	小堀鞆音	49	東京慈恵医院行啓	溝谷国四郎
10	大総督熾仁親王京都進發	高取稚成	50	枢密院憲法会議	五姓田芳柳
11	各国公使召見	広島晃甫	51	憲法発布式	和田英作
12	五箇條御誓文	乾 南陽	52	憲法発布觀兵式行幸啓	片多徳郎
13	江戸開城談判	結城素明	53	歌御会始	山下新太郎
14	大阪行幸諸藩軍艦御覽	岡田三郎助	54	陸海軍大演習御統監	長原孝太郎
15	即位礼	猪飼嚙吉	55	教育勅語下賜	安宅安五郎
16	農民収權御覽	森村宜福	56	帝國議會開院式臨御	小杉未醒
17	東京御着輦	小堀鞆音	57	大婚二十五年祝典	長谷川 昇
18	皇后冊立	菅 橋彦	58	日清役平壤戦	金山平三
19	神宮親謁	松岡映丘	59	日清役黄海海戦	太田喜二郎
20	廃藩置県	小堀鞆音	60	広島大本営軍務親裁	南 薫造
21	岩倉大使欧米派遣	山口達春	61	広島予備病院行啓	石井柏亭
22	大嘗祭	前田青郎	62	下関講和談判	永地秀太
23	中国西国巡幸長崎御入港	山本森之助	63	台湾鎮定	石川寅治
24	中国西国巡幸鹿児島着御	山内多門	64	靖国神社行幸	清水良雄
25	京浜鉄道開業式行幸	小村大雲	65	振天府	川村清雄
26	琉球藩設置	山田真山	66	日英同盟	山本 鼎
27	習志野之原演習行幸	小山栄達	67	赤十字社總會行啓	湯浅一郎
28	富岡製糸場行啓	荒井寛方	68	対露宣戦御前会議	吉田 苞
29	御練兵	町田曲江	69	日露役旅順開城	荒井陸男
30	侍講進講	堂本印象	70	日露役奉天戦	鹿子木孟郎
31	徳川邸行幸	木村武山	71	日露役日本海海戦	中村不折
32	皇后宮田植御覽	近藤樵仙	72	ポーツマス講和談判	白滝機之助
33	地方官会議臨御	磯田長秋	73	凱旋觀艦式	東城錠太郎
34	女子師範学校行啓	矢沢弦月	74	凱旋觀兵式	小林万吾
35	奥羽巡幸馬匹御覽	根上富光	75	樺太国境画定	安田 稔
36	敵傍陵親謁	吉田秋光	76	親菊会	中沢弘光
37	西南役熊本城	近藤樵仙	77	日韓合邦	辻 永
38	内国勸業博覧会行幸啓	結城素明	78	東京帝国大学行幸	藤島武二
39	能楽御覽	木島桜谷	79	不豫	田辺 至
40	初雁の御歌	鏡木清方	80	大葬	和田三造